

DIGITABLE 第31回勉強会レポート

2010年1月16日 於：江東区総合区民センター（第三・四会議室）



(レポート撮影：鈴木利男 会員)

(初級) 初級講座③ 「デジタルカメラの設定 / ピクチャースタイル」等 Photoshop Elements 講座 1 回目「Elements のしくみと概要」	井村奈加子 講師 高木 大輔 講師
(本科) デジタルフォト基礎講座 < 実践編 > 8 「スタジオライティング」 事例研究① 「年末撮影会写真 発表講評①スタジオモデル撮影編」 事例研究② 「Nikon D700 DX と FX の使い分け」 Photoshop 研究講座 「RAW の HDR 合成」	高木 大輔 講師 山口明夫 会員 高木 大輔 講師 平野 正志 講師

DIGITABLE 写真技術勉強会 (HOME) <http://www.digitable.info>

(午前) 初級講座③ 「デジタルカメラの設定 / ピクチャースタイル等」 担当：井村奈加子 講師

「デジタルカメラの設定」の二回目。

“それぞれのカメラのピクチャースタイルを使いこなそう”をテーマに、Canon、Nikonそれぞれのピクチャースタイル / ピクチャーコントロールの説明があった。事前の参加者へのアンケートから、井村奈加子講師があらかじめ各カメラの設定とピクチャースタイル / ピクチャーコントロールの特徴を調べ資料を作成している。

またそれぞれのピクチャースタイル / ピクチャーコントロールはさらに細かく調整が可能だが、そのためにはコントラストや明るさ、色相や彩度、シャープネス等について知識をおさらいしておく必要がある。

また機能の中にはモノクロームモードでのフィルター効果などもある。かつてY(黄色)、O(オレンジ)、R(赤)などのコントラスト調整フィルタを使用したものには楽しい機能で、風景撮影や人物撮影のコントラスト調整に便利に使える。作品としてセピア系の調色なども出来る。参加者各自が使用のカメラを持ちより、実際に機能の設定を確認するひとコマもあった。

最後にまとめとして井村講師から「色々なピクチャースタイルで撮影してみましょ。ご自分の写した写真を再生して、詳細情報を確認してみましょ」との話があった。

尚、アドバイザー役で参加の平野講師から「ピクチャースタイル / ピクチャーコントロールで設定しても、Photoshop Camera RAW や SILKYPIX などの汎用 RAW ソフトの場合は反映されない。(Photoshop Camera RAW や SILKYPIX などの標準設定で展開される) RAW の場合はメーカーごとの RAW ソフトを使用するなど注意が必要だ」といった補足説明があった。



井村奈加子講師

★ Canon EOS	= ピクチャースタイル
a. スタンダード	g. スタジオポートレート
b. ポートレート	h. スナップショットポート
c. 風景	i. ノスタルジア
d. ニュートラル	j. クリア
e. 忠実設定	k. トワイライト
f. モノクロ	l. エメラルド
	m. 紅葉

Canon のピクチャースタイル

★ Nikon	= ピクチャーコントロール
a. スタンダード	e. ポートレート
b. ニュートラル	f. 風景
c. ビビット	
d. モノクローム	

Nikon のピクチャーコントロール

参加問い合わせの方から要望が多かった Photoshop Elements の入門講座を今月から 3 回シリーズで行う。Photoshop Elements はデジタル画像処理の入門に最適で基礎的な使い方をマスターすることによって、他の画像ソフトのしくみも理解できるようになるという狙いだ。入門講座として、通常はあまり解説されない「画像の開き方」や「画像の保存の仕方」などといった、“パソコンで写真を扱う際の基本事項” といった点についても、時間をかけておさらいしていくつもりだ。

○ Elements のしくみ

Photoshop Elements はいくつかの高度なソフトが組み合わさって出来ていると考えてもいいだろう。写真の整理モード、スタンダード編集モード、ガイド付編集モード、クイック補正モードだが今回講座でははじめの 2 つを学ぶ。起動時に現れるスタートアップスクリーンから行いたい作業を選ぶと、その部分のソフト本格的に起動する。

○写真の整理モード (Browser モード)

写真の撮影順に画像を並べて管理するソフトで、Windows 標準のエクスプローラなどにはない瞬時の拡大縮小やレーティングや名札など便利な機能がついている。最初に写真を読み込む必要があるのが少し面倒。Adobe フォトダウンローダは自動的に「ピクチャ」フォルダに写真を取り込んでくれますが、後々管理が面倒なので、むしろ基本的な手動のやり方を覚えておこう。

○スタンダード編集モード

写真調整の基本モード (通常の PhotoShop に近いモード) で、画像処理ソフトの基本と言えるものだ。今回の講座ではここを中心に学んでいく。

ファーストステップとして、暗い写真を明るくするために「レベル補正」を使用してみよう。レベル補正では表示される明暗のヒストグラムについても理解して行こう。詳しい調整や他の画像補正については来月さらに詳しく述べるが、今はソフト内での確実な呼び出しや操作を重点にマスターしよう。よく使う項目の“コマンド操作”を覚えれば作業が早く楽しくなる。

その他今月は「プリントの基礎的な呼び出し方」、「調整した画像は別名で保存」などの確認をした。

折しも本日最初の井村講座の中で、ピクチャスタイルのシャープネスの説明の段で参加者から『ブログに掲載する写真にシャープネスをもっと効かせたいが…』と質問があったが、HP やブログ掲載の場合はカメラの設定だけでは足りず、Photoshop Elements などで HP やブログ掲載に合わせたサイズの別画像を作成し、かなり強いシャープをかける必要がある。そのあたりの実際の作業は来月の講座で述べる予定だ。

(コメントや意見の追加をお願いします)



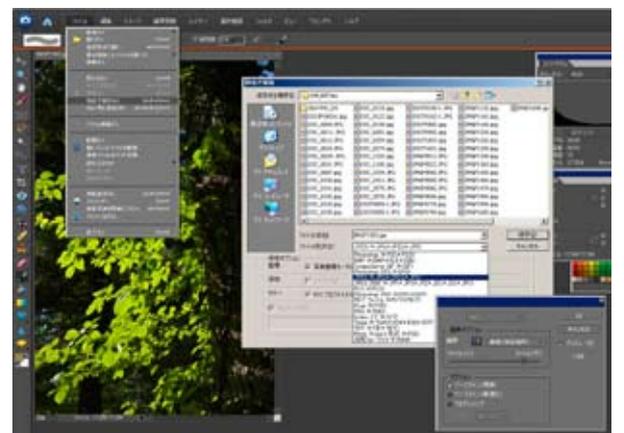
高木大輔 講師による Elements 講座と受講者



写真の整理モード (Browser モード)



編集モードで写真の開き方の説明



調整した画像は別名で保存

○デジタルに対する光

フィルム時代に比べ、階調域が狭いと言われるデジタルでは、“光の読み”に注意する必要がある。風景写真などでも逆光などで明暗差の大きい被写体では、アングルの少しの変化やフレーミングにも注意が必要だ

■カメラの階調設定（撮影に入る前に）

一般にデフォルトはカメラから出たそのままの画像で完成されることが前提なので、コントラストもメリハリのついた設定になっている。撮影後の調整を前提とするならば、コントラストを1,2段下げた方がフラットな画像処理向きの画像が得やすい。

○スタジオライティングの実際

2009年12月19日の撮影会前の勉強会では高木講師のTKプレースタジオを使用し、スタジオ用大型ストロボを使用して、4つのキーライトを中心に撮影実習を行った。モデルは姫野麗さん。セクシャル系のベテランモデルさんでわれわれの要望に意欲的に応じてくれた。

①フロントライト

カメラサイドからの正面光。立体感に乏しいが、明るさの演出や発色には好都合なので、他のキーライトと組み合わせて補助的に使われることが多い

②プレーンライト

斜め45度付近からのライトで、ある程度の立体感も得られる。ポートレートライトの基本

③サイドライト

被写体の立体感や質感得やすく、写真に切れが出る。シャドウ側をレフで起こしたりして、商品撮影などにはよく用いられる。抑えの補助ライトを用いる場合もある

④レムブラントライト

斜め後方45度付近、やや高目からの半逆光ライトで、立体感と雰囲気演出に効果的。レムブラントの絵画から来たことは有名だが、下二例のように補助光と組み合わせられることも多い

⑤スカイライト

通常キーライトとは呼ばないが、上方全面からのフラットな光でスタジオでは多用される。しかし、いわば天空からの広い光で、むしろ戸外撮影でライティングを応用する基本になる

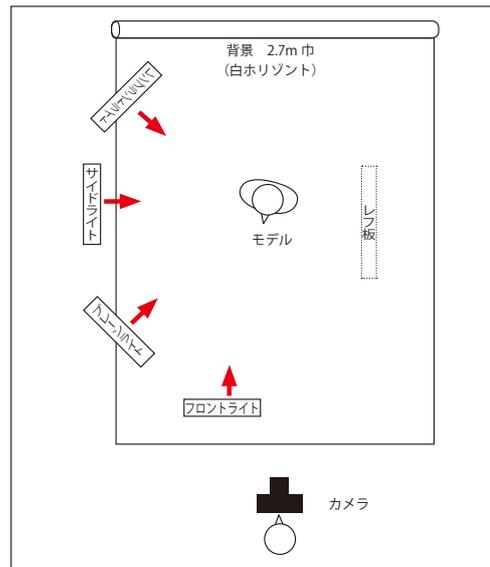
通常のスタジオライティングでは、以上のキーライトやスカイライトに補助光を加えライティングを完成していくわけだが、必ずしも多灯を使用する訳ではない。補助光として手軽で有効なのがレフ板で、スタジオでは小ささまざまなものが利用されている。明るい雰囲気演出はもちろんだが、シャドウ側の発色が良くなる効果も重要だ。

最後の全身ライティングではスカイライトで全体の明るい雰囲気を作ってから、ややサイド気味のプレーンをキーライトに、完成ライティングとしている。対抗側のレフ板の有り・無しは作品の狙いと好みで判断すればいいだろう。

(コメントや意見の追加をお願いします)



撮影会場のTKプレースタジオ



スタジオ基本ライティングの概念図



図142：フロントライト カメラサイドからの正面光。立体感に乏しいが、明るさの演出や発色には好都合なので、他のキーライトと組み合わせて補助的に使われることが多い

図143：レムブラントライト 斜め45度付近からのライトで、ある程度の立体感も得られる。ポートレートライトの基本

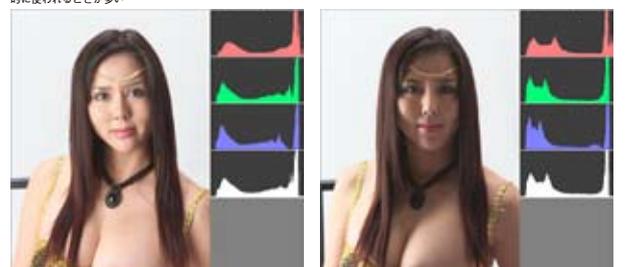


図144：サイドライト 被写体の立体感や質感得やすく、写真に切れが出る。シャドウ側をレフで起こしたりして、商品撮影などにはよく用いられる。抑えの補助ライトを用いる場合もある

図145：レムブラントライト 斜め後方45度付近、やや高目からの半逆光ライトで、立体感と雰囲気演出に効果的。レムブラントの絵画から来たことは有名だが、下二例のように補助光と組み合わせられることも多い



撮影会での完成ライティング

続いて年末撮影会での各会員からのモデル作品発表会。
司会進行は、自他共に認める“モデル担当”としてその道の造詣が深い、山口明夫会員。

冒頭山口氏が推薦の NUDE 写真集を持参して紹介。
NUDE 撮影の重要な要素として

- * Glamour
- * Erotic Image
- * Portraiture
- * Universal Contrast
- * Fashion & Beauty
- * Cinematic Styles
- * Romantic Images…

といった分析結果など、日頃の探究成果の紹介もあった。

続いて各会員作品のスライドショー形式による発表。
山口氏のウィットに富んだ司会進行により、各会員の作者コメントも滑らかに進む。

『NUDE 撮影は実ははじめて』という会員も多かったが、さすがにベテランぞろいの会員達。それぞれの視点と個性を生かした作品が寄せられた。

以下何人かの方のレポーターが拾った寸評である。

網羅的でないがお許し願いたい。

A 氏：『SILKYPIX の研究担当らしく美しい肌色再現』、
『丁寧なフレーミングと相まって女性がとても可愛く見えますね…』

O 氏：『大胆なフレーミングと使用カメラ FinePixS5Pro
によるものと思われる肌のしっとりとした質感が印象的』

S 氏：『“体のラインを追ってみた” の言葉通り、独自の
アングルが印象的』、『モデルとの距離感はまだちょっと遠慮気味？』

S 先輩：『ベテランらしくモデルの表情と指先や髪の毛など、
瞬時に細部も見出す視点とさすがのフレーミング』

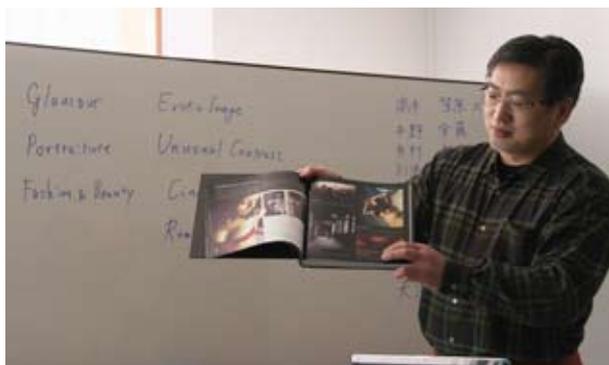
K 氏：『美しいプリントはもはや完成の域』、
『会員専用ページなどでデータでみられるようにしたいんですが難しいでしょうねえ？』

…

レポーターの感想として、同じ場所の限られた撮影会でも…
というか、だからこそ、作者による個性の違いが際立つような
気がします。年齢と人生経験の幅が広い当会ならではの？ではない
でしょうか。

せっかくこれだけ作品が集まったんですし、本当に専用ページで
各自が見比べられるようにしたいもんですねえ。それと …作者の
年齢が上がるに従って、どんどん写真の中のモデルさんの表情が
少女のように可愛く見えてくるような気がするんですが… これって、
気のせい？！

(コメントや意見の追加をお願いします)



“モデル担当”の山口明夫会員の特別講義



続いて山口氏の司会で各会員のスライドショー発表



“明室”になってからはプリント作品の発表



勝間田会員（中央）のモノクロ作品に注目

はじめに

D3X、D3、D700 と導入に悩み比較検討した。集約すると
(D3、D700 に対し) D3X でのデメリット

- 1 * A3 プリント、B4 までの商業印刷では差が出にくい
- 2 * レンズ性能の違いが却って出やすい
- 3 * プレ、微細なピントずれなどが過剰に影響する
→結果、感度か画質をを損なう
- 4 * 現状の PC 環境で 2000 万画素オーバーはかつたらい
→使用頻度の少ない高画素のため、大半を占める 1200 万画素以下の作業スピードも損なわれるのはかなわない
- 5 * メディアが 2 倍必要になる (これも無視できない)

(D700 に対し) D3、D3X でのデメリット

- 6 * イメージセンサークリーニングがない
→高画素ゆえにゴミも目立つ。これは欲しい!
- 7 * 重い 重量も、街撮りでは物々しい

(D3、D3X に対し) D700 でのデメリット

- 8 * ファインダー視野率が 100% でない (95%) ...

自分なりに削ぎ落として分析してみると、自分では 8 のファインダー問題が一番気になったが、「まあ、ライブビュー使用時は 100% だし...」と割り切り、ようやく D700 を導入した。

DX フォーマットとの共存

現行の FX フォーマットの Nikon レンズ群では、AF-S NIKKOR14-24mm F2.8G ED、および AF-S NIKKOR24-70mm F2.8G ED、AF-S VR NIKKOR ED70-200mm F2.8G(IF) が “三種の神器” とされているが、金額は勿論のこと、それぞれ 1,000g、900g、1,470 g / 合計 3,370 g // D 700 ボディとの合計 4,445g というウェイトを考えると購入意欲も萎えてしまう。果たして、現行手持ちの DX フォーマットレンズでは使えないのか？

DX フォーマットの切り替えを手動に

メーカー推奨では「DX レンズは自動的に DX フォーマットに切り替わる」が、それでは画素自体も自動的に 514 万画素に落ちてしまう。まずは撮影メニューの初期設定「DX フォーマットの自動切り替え」を OFF にする。

まず一番画角の広い Fisheye で試すと 1 のような画像が撮れた。ここはトリミング次第で全円 Fisheye ズームのような撮影を楽しむことにする。勿論 DX に切り替えれば問題ナシ。次いで気になる広角系だが、DX で多用している Zoom-Nikkor ED12-24mm F4G(IF) では、F5.6 まで絞れば 20-24mm 域は FX でも実用上問題なしだった。まあ 20mm も充分広角と言える。DX 高級標準ズームの Zoom-Nikkor ED17-55mm F2.8G(IF) では、32-55mm 域は FX でも実用上問題なし。描写も安定してボケも DX 以上に美しいように感じる。臍曲がりだが、FX フォーマットのまま DX のズームの視野の中でケラレの限界値をギリギリ探る行為もドキドキして中々に楽しい。

諦めていたレンズが復活

また DX フォーマットではやや解像度不足と感じられた手持ちのアナログ時代のレンズ群も、FX ではさほど気にならず楽しく使えるようだ。思えば DX フォーマットでは画像の中心部を 1.5 倍に引き延ばしている訳で、解像力も 1.5 倍の精度が要求されているのだろう？ FX で解像力が事実上 1.5 倍に向上すればこれはもう “名玉” ではないか！もちろん DX ではマイチだった望遠側のボケも、充分美しい。かくして DX 時代に解像力が不満で、一旦入手後手放した AF-S VR Zoom-NIKKOR ED24-120mm F3.5-5.6G(IF) を再び中古で手にいれ楽しんだりしている。DX では長すぎたズーム域も FX ならスナップにはピッタリだ。

結語

DX と FX は双方の “いいとこどり” で兼用してこそ意味がある。DX である程度のレンズを持っている方なら、最低限のレンズを順次買い足していけば充分楽しめるだろう。

(コメントや意見の追加をお願いします)



今月は 3 コマ担当の高木大輔 講師、“もう一息！”



1 : DX Fisheye-Nikkor ED10.5mm F2.8G FX のままと DX 切り替え



DX Zoom-Nikkor ED12-24mm F4G(IF) 20mm と 24mm で撮影



DX Zoom-Nikkor ED17-55mm F2.8G(IF) 32mm と 55mm で撮影



Nikkor 28-105mm

Nikkor 85mm F1.8D

Ai Nikkor 135mm



満員となり熱気あふれる受講風景。リクルートスーツ姿で初参加の学生も真剣な表情で見入る

Photoshop 研究講座「RAW 画像から作ったファイルの HDR 合成」

担当：平野正志 講師

夕暮れのイルミネーションの撮影。まだ空は明るく写るので、白飛びしないようにマイナス補正で写す。地面は暗く写った。そこで一枚の NEF (RAW ファイル) から明るさの違う 3 枚を作り HDR 統合を試みることにする。とりえず PSD 形式で保存した画像を 3 枚 HDR 合成しようとする。『RAW 調整したものはダイナミックレンジが損なわれることがある— RAW のままが望ましい—』という警告表示が出る。そのまま続行すると、二枚目のような結果となってしまった。やはり RAW 調整して PSD 保存したものの合成には無理があるようだ。

DNG 保存からの HDR 合成

そこで NEF を RAW ファイルのまま合成するために DNG 形式での HDR 合成を試みる。オリジナルの NEF ファイルを明暗調整したものを DNG に変換して汎用 RAW ファイルとし、別名保存した状態で DNG 合成を試みる。ここで気がついたことは、HDR 合成時のサムネイル (ソース、EV) はすべて 0、00 と表示され、明るさを変えたはずの各画像のサムネイルも同じ明るさに表示されている。合成後のプレビューは暗部が明るく表示され、明部も明るい。尚、二枚、三枚合成のヒストグラムもほとんど違いがない。

手動で合成

NEF ファイルから調整した、明暗二つの PSD ファイルを用意し重ねて調整する。

重なったほうのレイヤーの合成方法や透明度を調整すると下の画像に合成され、HDR 合成と同じような効果が得られる。合成スタイルを変えながら透明度を調整してみるとさまざまに変化し好みの状態を作ることができる。RAW ファイルから明暗の画像を作ることには撮影時に露出補正した同じ画像を作ることのできないスナップ写真では有効と思われる。撮影段階ではどうしても明暗両方を満足ゆく状態で撮影できない場面でレンジ幅が大きく補正できた。

まとめ：それぞれを RAW 調整と比較

それぞれその後の修正で彩度等も調整可能なので微妙なコントラストや彩度の差はあるが、大差ないように感じる。尚、DNG 合成された画像は 32 ビットあるのでフォトショップ上での調整には 16 ビットに変換する必要がある。

(コメントや意見の追加をお願いします)



今月の一枚：会場の江東総合区民センター
“青少年に愛の手を”の像。学ばば我等も青少年☆
(鈴木利男撮影)



平野正志 講師



元画像



警告マークと失敗画像



透明度で明暗 2 枚の
ファイルの合成



RAW 現像での調整



DNG の明暗ファイル
を HDR で合成